

## 親目線での障害福祉 どうしたらいいのかわからないから知っていることの安心感

学校に行けなくなった娘、どうしたら良いのかわからない私…はじめは支援があることも知りませんでした

なに自分の子供を障害者にしたいのか」と言われ、とても悲しくなりました。そんなとき、起立性調節機能障害という言葉を知り、専門医に出会うことができ「現状の状態で動けていることの方が凄くて、とても頑張っている！」その一言と、治療という具体的に取り組めることを知って、行動できることがとても救いになりました。そこに行きつくまでに2年かかりました。

現在娘は、継続治療の必要ない範囲で日常生活はできていますが、社会的価値観の常識の中に自分を当てはまることは、精神的にも身体的にも負担が大きくいつ崩れてもおかしくない危うさを親としては常に感じています。福祉サービスを受ける、受けないではなく「知っている」。その状態は障害福祉に対してネガティブな感情ではなく、大きな安心感に変わりました。

1人で抱え込まずに相談できる場所があることを知ってください。

執筆者：ジョブ川西 長坂 貴代子

## Associa Staff

伊井 統章 所属：ソーシャルサポート神戸

病院 PSW からアソシアに転職して8年目を迎えました。前半4年間は吹き荒れる嵐の中で削ったり壊したりを繰り返し、アソシアの基盤を仲間達と試行錯誤していました。微風になったり強風になったりと、未だアソシアには風が吹きますが、大嵐にまでは至らなくなったなと感じています。これは、チームビルディングとして導入した MBTI によるスタッフ間の相互理解が進んだことや、年を重ねた大人たちがマイルドになって組織の成熟度が上がったからじゃないかとみています。

そして現在私は、神戸の地で東奔西走の日々です。文字通り山から山も走りますし（六甲縦走キャノンボールラン）、人に会うため場所を創るために日々走りまわっています。座右の銘は「平常心」ですが、これが難しい…誰か僕を止めてください。



## Event information

# 2.25

(土) 時間は決定次第お伝えします

場所：アソシア・ジョブ川西（兵庫県川西市久代3-16-30）/ 共催：butterfly library

ゆっくりコーヒーはいかが？地域の方々と一緒につくるコーヒーイベント。「SHIROI SUNAHAMA（白い砂浜）」でリラックスするような時間を一緒に過ごしましょう。発達障がいやメンタルヘルス、小さなもやもやの相談も一緒にできます。詳細は SNS で随時発信しますのでお楽しみに。

発行元：株式会社アソシア

法人本部：沖縄県中頭郡北谷町北前 1-10-8

TEL：098-926-5175 FAX：098-926-5176

MAIL：info@associa-1nd.co.jp

HP：https://associa-1nd.co.jp/

## Interview

アソシアを利用されている方へのインタビュー



高校の時の実習で、コミュニケーションやメンタル面を強化する必要があると言われ、当時の先生からの紹介もあり、アソシアの接客コースでの訓練に参加しています。最初は学校とは違い、本格的な社会人としての訓練をやって大変だと感じていましたが、スタッフのアドバイスもあり業務に慣れることもできました。接客コースは明るい方も多く、他の訓練生ともよくコミュニケーションを取っており、目標であった体力作りや対人関係、ビジネスマナーを学ぶこともできています。これからさらに現場での訓練を重ねて一般就労に向けて取り組んでいきたいです。そして今後、今すぐにはないですが就職をしてさらにコミュニケーション力を磨き、将来はアニメの声優になりたいです。そのために、日々接客コースでコミュニケーションの訓練を行なっています。

協力：アソシアカフェ  
就労移行 利用 R さん（19 歳）

インスタグラムで情報配信中



ジョブ川西 ホイスコーレ神戸

# ASSOCIA JOURNAL

December  
2022

TAKE  
FREE



VOL.03





## アソシア・ジョブ川西～自分らしく「働く」ために、自己理解特化のプログラムを提供

「働く」を多様なプログラムや集団の体験の中から紐解いていきます。

アソシア・ジョブ川西では、多様なプログラムや余暇活動を通して、自分らしく働くための訓練をご提供しています。

<プログラム型訓練> プログラムでは、「障がい特性について知る」「自分の考え方のクセを知る」「自身の強みや苦しさを知る」「体調が悪くなる時のサインを知る」と自己理解に力を入れています。そうした疾病理解や社会資源等、1日3コマの座学の中で、多くのことを学ぶ機会を提供していきます。自己理解のプログラムでは、多くの企業などで活用されている性格検査なども実施し、自分をより生かせるようになる為の座標軸を知ることを丁寧にサポートします。どんな風に物事を受け取るのか、判断の仕方、人との接し方や物事の進め方等から、その人らしさや自分を活かせる仕事（逆にストレスに感じやすい職場環境や業務内容）について考えます。

1つ1つのプログラムが、利用する方の成長につながる様に組み立てられています。勿論、知ることだけではなく得た知識を活用する機会を提供していきます。少ない人数からスタートする集団での活動を通じて、他者と協力することや、どの様な集団であれば安心して過ごすことが出

来るのかを一緒に考えます。体験や経験の中からより良い「働く」を模索していきます。

<豊富な実習機会の提供> 生産活動ではなく、プログラムを中心とした就労支援を行い、ご本人様の希望に合わせて、いつでも実習が可能な体制を整えています。生産活動による繁忙期を気にすることなく実習にチャレンジすることで、職業観や勤労感、職業能力理解を深めて就職に繋がります。働くことと働き続けることの両方の視点を大切に訓練や実習機会を提供したいと考えています。

<余暇支援> 障がいの有無にかかわらず「働く」を支えるには、余暇の時間がとても大切だと考えています。仕事だけに焦点を当てるのではなく、好きなことを見つけて楽しむことや、他者との時間を大切にいくことで、よりイキイキと働くことが出来るのではないのでしょうか。アソシア・ジョブ川西では、開所日には仲間たちと楽しく過ごす時間や経験を提供します。いかがでしょうか？アソシア・ジョブ川西の就労移行のことを知ってもらえましたか？あなたの頑張りたい気持ちを応援させていただきます。 執筆者：ジョブ川西 後藤 歩

## Column



### 働きたいと思う気持ち（就労意欲）を上げるために支援者が考えるコト～働く理由は収入を得るため？それ、ホントにホント？～

「働く目的は何ですか？」私の所属している就労支援事業所で利用者に対しこの質問をすると「お金を稼ぐため」と答える方が大多数です。本当に？と思い、とあるエピソードを1つ。

一般就労をした利用者が、初給料を貰った日に報告に来て「〇〇万円もあったよ！」と、満面の笑みでした。そこで、私はいじわるな質問をしました。「何もしなくてもその金額を毎月もらえたら、今の仕事をやめる？」と。複数名にこの質問をしましたが、答えは「辞めない」と返ってきます。その理由は「仕事をしているって自慢したいから」「自分で稼いだお金で親に恩返ししたい」などがありました。これらに共通しているのは、働くことによる“人とのつながり”だと思います。自分のことを自慢する相手がいる、親に対する恩返し、相手は様々ですが『誰かのために働いている』のではないのでしょうか。タイトルに戻ると、就労意欲が低下している方を支援する際、働く理由を本人に理解させようとしがちで、「家賃を払うために働こう」「生活保護を抜けるために仕事しよう」と目標設定します。しかし、本来最初に支援すべきは、誰かのために働くという『誰か』と一緒に探すことではないのでしょうか？自分の仕事を自慢する友達作りが就労支援の最初の一歩かもしれません。 執筆者：アソシアカフェ 管理者 宮里 政士

## Reccomend Movie 003

7番房の奇跡という映画をご存知でしょうか？知的障害の父とそれを幼いながらに支える娘。親子2人暮らしをする中で貧しいながらも助け合う感動のヒューマンストーリー。なんて簡単なものではございません…。ある日突然、父が殺人容疑で逮捕され、娘と離れ離れに。房の中で出会った囚人仲間が最初こそ意地悪をするが、父を知る中で「こいつにそんな事ができるのか？」と疑う仲間たちの有り得ないコメディ劇が起る中、刑務所の火事をきっかけに、刑務課長も父の冤罪を疑い、無罪にする為に奮闘する。なぜ犯人になり、娘と離れ離れになったのか…。父の思い、伝えきれない気持ち…嘘…。後半は呼吸も苦しくなる思いで、つつい子の持つ親は感情移入してしまう感動作品。どうぞ笑った後に泣ける作品をお試しいただくのはいかがでしょうか？ 執筆者：ソーシャルサポート神戸 山田 綾子



## アソシア社会大学 初代学長の想い～vol.2 若者にとって必要なプラットフォームとは

初代学長、諸留さんに設立の経緯や当時の状況をお聞きしたインタビュー記事を連載。※あまりの想いに本号だけでは入りきらず、連載することになりました。(全3回を予定)

社会大学の対象になる子たちはどんな子たちで、共通点などはありましたか？

- 諸留：年齢で言うと18～20歳ぐらいで、共通点はいくつかあると思うんですけど、与えられてきた、ルールに乗ってきた子達。ルールから外れた瞬間にどうしたらいいかわからないとなった子達。あと、15歳ぐらいの時に孤立してた子が多かったかな。

確かにそうでしたね。私たちが部活に入る時は、本当にその部活に入りたかったとかじゃなく、仲のいい友達がそれをやるから、じゃあ私もやる！ってなりますよね。どこの大学に進学するかも、まず恋人がどの大学に行くかっていうのが大事だったりするんだけど…それが難しいとなると、今度は友達にどこの大学行くの？って聞いたりしますよね。

- 諸留：そうそう。だから人との繋がりの中から社会体験が加速するというか。動機はなんでもいいんですよ。

なるほど。動機はなんでもいい。確かに。子どもの時に釣りがしたいって始めるより、友達が釣りするから私も釣竿欲しい！ってなりますよね。人との繋がりの中から社会体験が加速していく…。だからこそ、人と繋がるプラットフォームを準備するということだったんですね。その対象の子たちとはどんなプログラムをやっていましたか？

- 諸留：世の中に対するカウンターカル

チャー（対抗文化）みたいなプログラムを結構やっていましたね。世の中が「就労、就労」ばっか言ってたから、そうじゃないよねって思って。「もしも自分だったら」というアソシアのコンセプトも踏まえて、福祉まつりとかではなくて、社会の中でやりたいって。那覇のカフェでライブしたり、沖縄市の一番街で何かやったりとか。

そういえば当時、通っていた利用者の方がライブに出るということで観に行きましたよね。演奏が上手って訳ではなかったけど、これが普通の青春だと思いました。ちなみに、カウンターカルチャーって言っていましたが、自分がどうしたいとか、自分の体験・経験がベースに基づいてない中で、無理やり就労支援するのってどうなんでしょう。私たちが大学4年間の中で、たくさん遊んだり、アルバイトしたり恋愛したり、いろんな経験をしたから仕事を選択できたのに。いきなり、18歳～20歳の若者に働きましようっていうのは厳しいかと…。

- 諸留：ちょっと無理がありますよね。アソシアの「自尊心を大切に」というコンセプトに付け加えるとしたら「尊敬」ですよ。カウンターカルチャーだからって、別に攻撃しているわけじゃなく、これを大切にしたいってことでしたね。

インタビュー：諸留 将人  
元：アソシア社会大学 初代学長  
現：合同会社 Reconnect

